

## 第4回 県政知事懇談

# 湯崎英彦の宝さがし

テーマ【挑戦そして実現！引き出せ広島県の「底力」】

と き 平成22年4月17日（土）

ところ 尾道市総合福祉センター

広 島 県

目 次

頁

開 会 .....	1
懇 談 .....	2
自由討論 .....	27
閉 会 .....	32

## 開 会

### ○司会（広報課・前田事業調整監）

ただいまから第4回「湯崎英彦の宝さがし」を開催いたします。

初めに、湯崎知事が御挨拶申し上げます。

### ○知事（湯崎）

広島県知事 湯崎でございます。県政知事懇談「湯崎英彦の宝さがし」の開催にあたりまして一言御挨拶申し上げます。

今日は第4回でございますが、毎回こうやってお休みの日に開催させていただいておりますが、本日も土曜日のお忙しいところお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

この懇談会は、私が県庁を運営していく上で方針の一つとしております現場主義というものに基づきまして、直接住民の方々からいろいろな御意見をお伺いしたいということで進めております。「宝さがし」と名付けてはありますが、宝だけではなくて、日々取り組んでおられる課題や困ったこともあると思います。今日もたくさんマスコミの方が来ておられますし、また、後ろに傍聴者の方がいらっしゃって、なかなかリラックスした雰囲気にならないかもしれませんが、普段お考えのことを是非御忌憚なくお話しいただければと思います。

この懇談の結果につきましては、個々の政策に反映するものもあるかもしれませんが、私としては、いろいろな方々の御意見を蓄積して行って、また大きな政策につなげていきたいと考えております。そういう意味では、この懇談会を県政の政策を考えていく上での基盤づくりのようなものと受けとめておりますので、是非よろしく願います。

そういった意味も含めまして、いいこと、悪いこと、今日は市長もいらっしゃるので市の悪口はなかなか言いにくいかもしれませんが、もちろん県の悪口も含めてなんなりと、あるいは褒めていただいてももちろん結構ですけれども、いろいろ御意見をいただきたいと思います。

始まる前に私の今、取り組んでいることを御紹介させていただきたいと思います。今、広島県は非常に豊かな県でありますけれども、これから10年、20年、あるいは30年を眺めますと、非常に厳しい状況がこれからやってくるという入口にさしかかっております。これはもちろん広島県だけではなくて、日本全国そういう状況ではありますけれども、今、我々が持っておりますこの豊かな暮らしというものを次の世代につなげていくためには、転機にあるこのタイミングでいろいろ我々が頑張っていかなければいけないと思っております。

その頑張りを五つの挑戦と申し上げておりまして、「人づくりへの挑戦」、「新たな経済成

長への挑戦」,「安心な暮らしづくりへの挑戦」,「豊かな地域づくりと真の地方主権の確立への挑戦」,最後は「行政運営刷新への挑戦」ということで,最後は行政の中身の話になっておりますけれども,この五つの挑戦というのに取り組んでおります。こういったことを通じて新しい活力を広島県で生んでいって,この豊かさを次世代につなげていきたいと考えている次第でございます。

今日は午前中,尾道を回らせていただきまして,自転車にも乗って,半分だけだったのですけれども橋も渡ったり,あるいは,空き家再生のプロジェクトで,ガウディハウスという非常に建築的にもおもしろい,尾道らしい雰囲気のお家を拝見させていただきました。

私は力や宝と言っているのですけれども,持っている素晴らしいものをどんどん伸ばしていく。これは,古い物とか,あるいは物だけではなくて,人の力だとかつながりだとか,そういったことも含めてどんどん磨いていって,そして,よりよい広島県にしていきたいと考えている次第でございます。

この懇談会もそういうものの一環であります。今日は限られた時間ではありますけれども,日ごろの思いをおっしゃっていただければと思います。よろしくお願い申し上げます。

## 懇 談

### ○司 会

それでは早速懇談に入らせていただきます。本日のテーマは,「挑戦そして実現!引き出せ広島県の『底力』」でございます。

初めに,参加者の皆様からお一人ずつ5分程度で御意見や御提案を発言していただき,知事と個別に意見交換をしていただきます。参加者の御発言が一巡しましたら,残り時間で全員での意見交換を行います。

発言につきましてはあらかじめ順番を決めさせていただいております。順番に従ってお座りになったままで,皆さんちょっと緊張気味ですけれどもリラックスして順次御発言をいただきたいと思います。

それでは,初めにAさんからお願いいたします。

### ○A

この緊張の中,トップバッターで今日来てびっくりしました。時間がないので始めたいと思います。

私は二つお話をしたいと思います。一つは,尾道サイクリング協会の会員として,世界一のサイクリングロードしまなみ海道という話と,身近な国際交流,財団法人AFS日本協会を通じての高校生留学ということでお話をしたいと思います。

まず,尾道サイクリング協会ですが,しまなみがあるので,昨年立ち上げて一生懸命頑

張っています。私たちのビジョンですけれども、サイクリング・ランナーズ・ウォーカーズステーションをつくりたいというのが一つと、サイクルトレイン、在来線、新幹線に自転車を持ち込めるものを走らせたい。もう一つは、国道、県道、市道に自転車専用レーンをつくりたい。しまなみ海道で国際ロードレースをやりたいという四つの目標で頑張っております。

我々がいう自転車というのは、スポーツに使うスポーツサイクルというものでして、実用車、通学用の自転車とは少し違います。スポーツサイクルは、派手な格好をしてヘルメットをかぶって走っている連中のことです。

サイクリング協会の活動としましては、しまなみ海道の情報をホームページやブログで発信しております。危険箇所案内であったり、グルメ情報であったり、自転車を部屋に持ち込めるホテルの紹介であったりをしています。それと、しまなみ海道と言いましても片道 75 km ありますから、初心者へのアドバイスを行っております。それと、サイクリスト向けの標識整備を今やったださっています、そのお手伝いをしています。我々には全国に仲間やアドバイザーがおりまして、プロやアマチュア、いろいろな方からお話をいただけます。各地の大会に参加して情報発信や大会の研究をしています。それと、サイクリングは楽しいですよという魅力の発信をしています。

皆さんがよく間違われるのですが、自転車は軽車両で、車両なのです。ですから、車道を走るのが当然なのです。自転車は走っていいですよというマークが歩道のところにありますが、あれはあくまでも走っていいですよというマークなので、子どもとお年寄りの方は別ですが、堂々と走ってはいけません。ということは、自転車は車道を走るべきである。車道で自動車と自転車が通るところを線でもいいから分けてほしい。自転車安全利用五則というのが警察庁交通対策本部から出ています。自転車は車道が原則、歩道は例外とか、左側を走りましょうとか、安全ルールを守りましょうということ徹底してやっています。

そういう中でしまなみ海道の魅力というのは、一つは海の上を自転車で走れるということです。景観のすばらしさ。自動車では分からない、自転車のスピードだから分かる景観があります。それと、田舎ですから交通量が少ないので走りやすいです。都会と比べると全然違います。適当にアップダウンがあります。一番すごいのが、日本の古い文化がまだ残っています。そういうことをやって、世界一のサイクリングロードにしまなみ海道を育てあげていきたいと思っております。

生涯スポーツとしてのサイクリングというのがこのごろ語られ始めました。我々のメンバーの最年長は 73 歳です。73 歳で実は 150 km ぐらい平気で走って帰ってこられます。そういう方が多くいらっしゃるということです。以上、サイクリングの魅力です。

あとは、身近な国際交流としての高校生留学の話をしてします。何で高校生で留学しなければいけないのかという話になるのですけれども、何で高校生かということが大事です。感受性のあるときに言葉の通じない国に行って、自分一人で何でもやらなければならないと

いうことを学んでいく。それと、ホストファミリーがいるということです。大学生はもう大人ですから下宿、高校生はホストファミリーが自分の子どもとして育ててくれます。私たちがそういうふうにしてホストファミリーをしています。それが大事なことです。外国にお父さん、お母さんと呼べる人、親友と呼べる人がいる。先ほども高校生と話をしておりましたが、日本政府が幾らお金を積んでやってもあまりいいように日本は言われないのです。どうしたらいいのかというのは簡単なことで、国際機関に日本人が少ないということだと思います。そういうところに行って力を出そうとするならば、もちろん英語は必須ですが、母国語を入れて三カ国語は必要です。それを高校生のうちからやってしまう。意見交換、ディベートができる英語力を付けるということが大切ではないかと思います。

今、ジャパंकール、日本かっこいいということで、日本に来たい高校生はいくらでもいます。特にアジアの子は日本を目指して来ますが、その半分も我々は受け入れられていません。ホストファミリーが少ないからです。寝るところと三食というのがホストファミリーの原則です。食べものをボランティアで出してください。それと寝るところを提供してください。あとは家族として迎えてくださいということです。そういうことをやっています。

あとは奨学金の問題があるかと思います。外国から来る子たちにはかなり政府が奨学金を出しますが、こちらから出かけて行くほうの奨学金が非常に少ないです。

それと、大学受験に不利になるということがあります。高校2年生のときに1年間留学をしますと、勉強がかなり遅れます。この辺の改善、英語の入試とか、帰国子女枠が使えるというPRが足りないと思います。

あとは帰国ショックです。自分を主張するので、日本に適應できないというふうになって帰ってきます。学校がつまらなく感じると言っておりました。そういうふうな子たちがいるということで、端折って言ってしまいました。しまなみ海道は世界に通じるサイクリングロードだし、観光資源だと思います。そういうふうな中で高校生から留学をして、日本のことをきちんと考えようということもやっている。端折ってしまいましたので訳が分からないと思いますが、資料を送っておりますので後でゆっくりお読みください。以上です。

## ○知 事

ありがとうございます。テーマとしては、私自身、自転車に乗りますし、高校1年生のときにYFUで交換留学に行っているの、非常に身近なテーマです。

質問なのですけれども、日本一のサイクリングエリアというと、今、どこなのですか。

## ○A

いっぱいあるのですけれども、一番有名と言われるところは、能登半島であったり佐渡

であったり、大体そういうところは大会を開かれています。沖縄でも美ら海をやっていますし、北海道でもツールド北海道とかやっているのです、日本全国でかなり大きな大会をやっています。ただPRが……。

#### ○知 事

大会があるかどうかは別にして、むしろ逆に普段のお客さんと呼んだりとか、あるいは自転車に乗ってサイクリストとしてすばらしいと思えるような場所とか。

#### ○A

いろいろ走ってはみているのですけれども、私はしまなみが好きです。何でもかと言ったら、生活があるのです。ほかのところは、郊外とか林の中に道がつくってあったりして、かなり距離があるコースはあるのですけれども、そこの中に生活がないのです。

#### ○知 事

私の質問が悪かったのかもしれないのですけれども、つまり、そういうサイクリストとしてすばらしいというところから学ぶところは何だろうという質問をしたかったのです。しまなみが一番で、もう改善するところがないということであればあれなのですけれども。

ちなみに、サイクルステーションは今度できますのと、あと、サイクルトレインも今年予算がつきましたので秋に運行する予定になっていまして、あとは標識とかサイクリングロードの改善というのも行う予定になってはいます。そういったものも踏まえて、さらに。

#### ○A

自転車乗りから言わせると、自転車を歩道にあげないでくださいというのが一番です。歩道を走ってもいいですよというのはいいのですけれども、やっぱり自転車といっても20km以上スピードが出るのです。それが歩行者と混在して走ることの危険さというのが非常にあります。尾道で言ったら商店街の中を自転車が走っていると怖い思いをするのと一緒です。そういうことがあるので、県道とか国道とか、是非車道側へ自転車が走るスペースを、ライン一本でもいいから入れてください。御高齢者とか子どもさんは歩道でいいと思うのです。ただ、元気な高校生とか、本当に自転車で走っている連中というのは車道を走らすべきだろうと思うので、そこを間違えないようにやってくださったら、もっとすてきになると思っています。

#### ○知 事

ありがとうございます。ちなみに、交換留学の件で言いますと、私は1年遅れまして、1年遅れたのですけれども、2学年に渡って友達ができて、そういう意味ではすごくよかつ

たと個人的には思っています。

## ○A

今、多くの県立高校では、進学希望か、もう一回2年生をやるとかいうのをチョイスできるようになっていきます。私が知っている限り両方のパターンで、進級した子もいるし、進級していない子もいます。

## ○知 事

いずれにしても、高校生ぐらいのときに行くというのは非常にインパクトが大きいと自分自身の経験でも思いますので、それはおっしゃるとおりだと思います。ありがとうございました。

## ○B

旧尾道市から来ましたBといいます。そこにスライドを用意させていただいているのですけれども、2007年の5月から年に2回、春と秋に「おのみち手仕事市」というのを尾道市内の宝土寺というお寺で開催してきました。始めたきっかけは本当にとっても小さなことで、時間のない忙しい毎日を送っているけれども、ふと立ちどまって、そういう手づくりものなどに触る機会とかつくる機会というのは人生を過ごす中でとても大切なことだと思って、開催を始めました。そのころは私自身何をつくりたいというのもなく、今ではとても大きなイベントになりましたが、個人の友達同士で始めたことだったので、大きなことは何も思っていなかったのですが、この手仕事市を開催することによって、とてもたくさんの方の出会いや学びがあり、だんだん私の中にも変化が生まれてくるという大切な経験をさせていただいています。

本当に一人一人のつくってくださる個人の方たちの思いが集まっているというのが大きいと思います。日々の生活を普通にされている、みんないろいろな生活があって過ごしているのですけれども、そこで手づくりものに触れたりつくったりということは本当に心温まるものがあります。

以前から尾道の楽しみ方というのを市内で住みながら考えていたのですけれども、尾道自体は大きなまちではなく、今、観光地としては有名なのですけれども、お寺がたくさんあったりというとても小さなことはたくさんあっても、とりたてて大きな会場を見に行くという一つの目的で来られる方は少ないと思うのです。そういう散歩をしながらまちを歩いていくというのが尾道の楽しみであって、それと手づくりものをつくってみたいという気持ちというのがとても似ているのではないかと考えて、その2点が私の中ですごく好きなことだと思ったのがきっかけになりました。

そうして始めた手仕事市なのですけれども、イベントに来られるお客様とお店の方の交



流もすごくありましたし、お店の方同士が仲良くなられて、次にはまた違うイベントをそれぞれに開催されているという、本当に人の和というのはすごく大きくなるものだというのを実際に体験しました。その気持ちがとても温かくて、今は何でも買える世の中になっていますけれども、そういう物質的な喜びではなく、これからの時代は心が温かくなることが求められる時代になってくるのではないかととても感じています。

おのみち手仕事市は尾道のイベントとして定着させていただいているのですけれども、年に2回だけ開催してきた私にも少しずつ変化が生まれまして、たくさんの方と出会うのですけれども、年に2回だけだとなかなかゆっくりお話ししたりする機会がなかったのもっと人のつながりを大切にしたいほうがいいのではないかとということに気付かしまして、先ほど知事がガウディハウスに行かれたと言われていましたけれども、その空き家再生の方たちがつくっているアパートメントにアトリエとして一部屋借りて、そこで活動することを去年の暮れから始めました。手づくりものを一緒につくったり、考えたりする場にもなっていますけれども、次にもう一つ私が気付いたのが、実はこのおのみち手仕事市に携わる方たちが私と同じ30代、40代の子育て世代がとても多かったということです。毎日生活していく中で、ストレス社会と言われていたのですけれども、どうしてみんなそんなにストレスを抱えて生活をしているのだろうかというのが一つの疑問で、子どものころには夢をみなさい、未来は明るいよと言われてながら育ってきたのですけれども、現実を見ると、ストレス社会で癒しが無いとか、テレビの報道などでもたくさん言われていますけれども、そういう悩みや疑問、思っていることをもうちょっと話ができる場になればいいと思ったのと、あとは、子どものころに本当は大好きでできなかったことなどにもっと大人が気付いて、それを表現していくことができたなら、それが本当に生きながらの育児としての教えになる、育児につながるのではないかという思いがあります。

なかなかうまく言えないのですけれども、大人たちがまずは先頭を切って楽しい時代にしていかないと、子どもたちも楽しくない、不安な時代になってしまうし、未来も見えないということにつながっていくので、まずは私たち大人が夢を見て、広い世界を考えながら新しい未来を切り開いていきたいという思いにつながって、赤ちゃんプロジェクトというのを名前だけ付けて始めたのですけれども、その中には本当にたくさんの気持ちがつながっていて、今日は皆さんに伝えるためには何か形にしないといけないというので、1枚の冊子をちょうど3月につくることができたのでお持ちしました。その中には、このプロジェクトは何ということとか、何をすればいいの、どうしたらいいのという形だけの話ではなくて、本当に心のこもった内容を一人一人の大人たちに書いていただきました。実際私がメッセージを集める作業をしたのですけれども、想像以上にとても温かい内容でした。普段は普通にお話とかをしていても全然気付かないことなのですから、こうやってメッセージとして書いていただくと、皆さんとても温かいものを持っているのです。

そこで一番思ったのが、おのみち手仕事市から始まった人と人とのつながりですけれど

も、一人一人の個人の力はとても大きいというを感じています。だから、これからの時代は本当に心と心のつながりになって、一人一人の人たちが自分らしく生きていくことによって、広島県全体も、行政の方とか頑張っていらっしゃると思うのですけれども、一人一人の力は本当にすごいということを一番お伝えしたくて、今日はそれを言おうと思って来ました。だから、広島県の未来が明るくなるためにも、もっと一人一人の活躍の場とか、そういうところをつくっていただけたらといいなと思います。

#### ○知 事

ありがとうございます。私も広島県を動かしていく上で、個人の方とか、個人だけではなくて企業とか、あるいはいろいろなサークル、この赤ちゃんプロジェクトもそうだと思いますし、手仕事市もそうだと思いますけれども、そういった個々の活動がもっと活発になっていくと、何か変えようという人たちが力を得てもっと大きな動きができるようになっていくということが大事なことだと思っています。県としてもそういうことを支援していきたい。こういうのはお金をあげて何ということとちょっと違うことだと思っているのですけれども、そういう活動が活発にできるようにしていきたいと思っています。

もう一つは、Bさんのお話の中ですごく鍵になっているのが、つながりということだと思うのです。いろいろなところでつながっているというお話をされていたと思います。本当に個々の力をつなげていくことが県としてもできたらいいなと思っています。

一つお伺いしたかったのは、手仕事市は最初は一人、二人のお友達と始められて、今は拝見しているともものすごいですね。これは何かマジックがあったのでしょうか。

#### ○B

本当にたくさんの方に聞かれるのですけれども、計算は何もなくやってきました。でも、本当に一人一人の方は真剣なのです。世の中のことも思っていますし、主婦というくくりがありますけれども、それだけでは収まりきれない思いを皆さん持って子育てとかお仕事とかもされていますから、そういう一つ一つの力が本当に一つになったら、絶対すてきな広島県になると思います。

#### ○知 事

きっとBさんが何かそういうものを持っていらしゃったのでしょうかね。

#### ○B

すみません。話していたら感動してしまいました。

## ○知 事

その秘密のスパイスかマジックか分かりませんが、またゆっくり教えてください。ありがとうございました。

## ○B

ありがとうございました。

## ○C

私は御調町のCと申します。どうぞよろしく願いいたします。このように身近に知事様にお会いさせていただきまして誠にありがとうございます。

私の地域は特産「串柿の里」として、一昔前の生産量は全国でも一、二番とも言われていたようでございます。串柿は、お正月の神、仏のお供えものとして、カキを一本の竹串に10個さしつけるのですが、くしの両外側に2個ずつ、内側に6個さしつけます。それで、外にニコニコ（2個2個）仲むつ（中六つ）まじくと言われ、縁起物として知られています。毎年秋には家々の軒先に連なるそれは見事な串柿のすだれは、今では稀に見る光景になりました。

私の地域は、近年は転居される方もあり、人口も減少し、少子高齢化に直面している状況であります。日ごろ生活していく中で高齢者、一人暮らしの方への声かけをしながらも、どうしても外出がおっくうになり、家庭で閉じこもり生活になりがちになってはならないと思ひまして、私たちはお互いいつまでも元気で生活し、長生きしたいとの願いの思いで、当時介護保険制度が始まって間もないころ、今から7年前でございしますが、ふれあいサロンに取り組みました。毎月1回皆さんに集会所に気楽に集まっていただき、環境美化活動として周辺の清掃作業を行い、その後、レクリエーションとして昔の唱歌を歌ったり、脳の運動としてクイズをしたり、軽い体操をしたり、よもやま話を通して皆さんの笑い声が聞かれる瞬間は至福の至りでございます。

行政の支援をいただき、保健師、管理栄養士さんに健康指導をしていただき、毎回、明るく笑顔の集いとなり、楽しいひとときを過ごす出会い、人と人との支え合い、癒しの場として、老化防止、また一番気がかりになっております認知症高齢者にならないように健康づくりに取り組んでいます。

ふれあいサロンの活動によりまして地域の絆は深まり、食生活改善にもつながり、健康維持の意識が高まり、お互いが総合検診にも積極的に受診するようになったことは大きな成果と思っています。

私たち高齢者が住み慣れた地域社会の中で安心して暮らすことのできるよう願っています。幸い御調町は保健・医療・福祉が連携した福祉サービスが充実していますので、恵まれていることをありがたく思っています。さらに充実し、持続することを希望いたしてお

ります。以上でございます。

## ○知 事

ありがとうございます。県内でも御存じのとおり高齢化が進んでいるところがたくさんございまして、皆さんなかなか出かけられないということが大きな課題になっています。そういう中でそうやってある意味で言うとお互いが手を差し伸べながら活動する機会をつくられているというのは本当にいいことだと思いますし、行政としてもありがたいことだと思います。先ほどのつながりと同じで、その中で絆が生まれていくというのは本当に大事なことだと改めて感じさせられました。

## ○C

ありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いします。

## ○D

尾道市内でNPO法人工房おのみち帆布を営んでいるDと申します。よろしくお願いたします。

私どもは帆布を使った小物とかバッグ類を手づくりでつくっています。昨年からはまなみコットンロードという取組みをいたしております。これは、今治のタオルも尾道の帆布も同じ綿からできております。それで昨年は綿々サミット、ラーメンではないのですけども、綿々サミットというシンポジウムも今治と一緒にやりました。

昨年は国の後押しでしまなみ海道上の草木染めの調査研究を認めていただきまして、それに向けて今やっている最中でございます。まさにしまなみ沿線上の草木染めが商品、またビジネスになるこれは宝さがしそのものでございます。

昨年は尾道でも向島のほうで綿を種から植えました。市民の皆さんが協働で出てくださいまして、綿を春に植えて、秋に綿が実ったところで綿つみをして、それを使ったワークショップ、糸紡ぎから始まって、それを草木染めで染めて織り上げるという、これを親子参加型のワークショップでやっております。そのときに染めた綿で、綿は綿でいいのですが伐採した木は何か染まらないだろうかと思っていましたら、こういう感じに、いい色に染まります。綿の木からです。綿の染料というのは恐らく日本で初めてだろうと思います。今まで出ておりません。私どもがこの調査研究の上でつくった染料をビジネスとしてこれから開発していこうと思うのですが、草木染めの中でも綿で染めるというのは今まで日本ではなかったのです。先ほど御調のほうでカキがありましたけれども、尾道の特産としてはカキ渋染めというのがあります。これは北前船が昆布などを尾道へ降ろして、その帰りの船でカキ渋の渋液を積んで帰ったという文献も残っております。

こういう草木染めというのはエコです。私どもは帆布を扱った商品をつくっております

が、今までは全部化学染料で染めております。帆布はもともと綿でできているので、最終的には燃やして土に戻せるのですけれども、これに化学染料が載っているために燃やせないという何とも言えない寂しさを持っていたのです。そこで、この草木染めというのはどうだろうかということでやりだしております。

今、向島のほうでテキスタイル研究所というのを立ち上げて、若い者が3人頑張っております。若者は全員東京から来ました。芸大、美大の卒業生ですが、安い給料でもしたいことができる、させてくれる尾道というのに魅力を感じて、デザイン事務所で30万円以上もらっていた子が17万円の給料で今、頑張ってくれております。すごく戦力になっております。

草木染めの草木は案外薬草でもあるのです。ですから、染めることができるものは薬草としても使える。先ほどのカキ渋もそうです。カキも二日酔いにいいとよく言われますよね。そういう面でこの瀬戸内の気候のいいところで育つ草木から染料と薬草も一緒に調査研究をこれからも進めてまいりたいと思っております。

もう一つ、尾道商店街でお役をいただいているのですが、どこの商店街も跡取りが少なく、店を閉店するいわゆるシャッター通り商店街と言われるような話もちらほら入っておりますが、私どもは今、跡取り息子、娘、婿でも、嫁でも若い人を中心に尾道商店街で活性化委員会というのを立ち上げて、まちの定住人口をどうやって増やしたらいいかということを探求しております。これは尾道市ともお話をさせていただいて、どういう施策を尾道としても出していただけか、一緒に考えていきたいと思っております。取組みは大体そういうことでございます。

## ○知 事

ありがとうございます。綿自体から手掛けられてされているというのは初めてお伺いしたのですけれども、大変手間のかかることだと思っておりますけれども、そこまでやろうとされたきっかけは、やっぱり今治との関係というところなのですか。

## ○D

それもあります。帆布は綿からできています。でも、綿を見たことがないのです。今の70歳以上ぐらいの農家の方はこの近辺でも戦前は綿を植えていたという話を聞きまして、それでは綿の種を取り寄せて植えてみようということになったのです。それと、今治もタオルは綿ですし、あそこも今、東南アジアに押されて四苦八苦しておりますので、今治のそういう人と一緒に新しい織物をつくらんかというような話を持ち出して、今、一緒にやっております。ここにあるショールですけれども、これは綿で染めたのですが、この素材は今治で織ってもらっています。タオルの素材で、すごく柔らかいです。ネットに入れて洗濯機で回せば洗濯できるという代物で、これからこういうのをどんどん今治と一緒に、向

こうで織ってもらってこちらで染めるということで、連携して商品化していこうと思っております。

## ○知 事

ありがとうございます。今治のタオルは今すごくブランド化して品薄になっているというのも聞いています。そういう昔からあって、ほかにもたくさん競争があって大変なのだけれども、いろいろ工夫をしたらまた新しい力を生み出すことができるという例だと思います。また、今のお話の中で、今治とも協力しながらやられているというのは、地理的につながっているというのもあると思いますけれども、これから県の立場での協力というのもしっかり考えていかなければいけないという事例をお聞かせいただいたような気がします。ありがとうございました。

## ○E

こんにちは。恐らく最年少参加者のEです。ほかの参加者の皆さんに比べて、活動をまだしていませんし、取組みと言えるものもないのですが、中学校の3年間でいろいろな経験をさせていただいて、例えば中学1年のときにはイオン環境財団が主催している中学生の作文コンテストでドイツへ連れて行っていただき、環境視察をしました。また、2年次には子ども国会、そしてシャプラニールというNGOがやっている中高生国際協力ユースフォーラム、3年次には国連作文のほうで特賞に入ってニューヨーク国連視察などへ行きました。今回は自分がどう活動してきたかというより、自分が何を学んできたかということを中心にいろいろと提言させていただきたいと思います。

まず、ドイツで学んできたことからですが、ドイツでは本当に市民の力、要するに住民や国民、もっと小さなレベルで人々の力というものを学びました。ドイツももともとは環境政策に政府が熱心だったわけではなく、市民がチェルノブイリ原発事故の後からそういった環境問題というのを意識しだして、市民の力が結局政府を動かした。そういうことをドイツのスタッフの方がおっしゃっていました。私がドイツを訪問したときには、既に風力発電の風力機が田園部のあちこちにありましたし、普通の住宅にも太陽光パネルがいっぱいついていて、それが当たり前だという感覚になっているのに驚きました。

日本も大きな目標を掲げながらもなかなか環境政策に取り組めていないというのが実情ですが、国からではなく、県からでも発信できると思うのです。最初は何もないところからでもそういった政策はできると思います。特に広島県は温暖な気候から冷涼な気候、海の部分もあれば山の部分もあり、本当にいろいろな地形があるので、風力発電、太陽光発電、海力発電などいろいろな再生可能エネルギーというのも使っていけるとと思います。この不況の時代に予算を出していくのはなかなか難しいかもしれませんが、そういったものをできれば県のほうでも後押ししていただければと思います。

そして、ニューヨークの国連視察で学んできたことですが、まずニューヨークという都市で考えたことがあって、ニューヨークはメルティングポットとか、ビッグアップルとか言われるようにすごく多種多様な民族、人種がいる街で、すべての多様性が認められているという空気をすごく心で感じました。広島県でも、僕は広島市内の基町高校に通っているのですが、駅にも外国の方がたくさんいます。その中でも日本という国はまだまだ国際的に開かれたとは言えない国なので、ちょっと困っている人がいたり、そういった状況を見かけます。こういうのをなくして、広島県が世界にそのよさをアピールできるようになるためには、やっぱり広島県自身が国際化しなくてはいけないと思います。例えば広島県のしまなみ、やまなみのよさをホームページで英語だけではなく、ほかの言語も載せて世界に発信する。また、通訳案内士の方をもっと養成して、広島市だけに限らず広島県内を見れる環境をつくるのが大事だと思います。

最後に、子どもという立場から提言させていただきたいのですが、私たちが大人になって、十何年後に広島県がどうなっているのかというのはまだ分かりませんが、そのときに広島県の底力を出していくためには、教育というのは重要だと思います。新しい何かを創造していくときというのは、知識だけではなく思考力も求められると思います。思考力というのが少し低下していると思います。

私は中学 3 年のときに国際ユースワークキャンプというのに参加しました。そこでは 6 カ国から 10 代の青少年が集まって、10 日間過疎地域で農作業を手伝いながら国際交流をしていくというものでした。その中で思ったのが、やっぱり日本人は自分の考えを前面に出していけないというのを痛感して、先ほど A さんがおっしゃったように、国際社会の中で広島県が、そして日本がその存在を示していくには子どもたちの考える力というのを付けていくことがすごく重要だと思いました。なので、県のほうからも、県独自でもいいのでそういった考える力を付ける機会を子どもたちが持てるようになればいいなと思います。

## ○知 事

ありがとうございました。E くんのお話を聞いていると、とても子どもとは言えないので、高校生ですし、立派な大人だなと思います。県でも幾つか取組みはしていて、確かに広島の場合には意外と海外からのお客さんも多いですけども、そういった表記の部分とかは遅れているという感じはします。僕が言ってはいけないのですけれども、だったらやれと怒られるのですけれども、すみません。まだ僕も 5 ヶ月ということで免じていただきたいのですけれども、それはおっしゃるとおりだと思います。

他方、これは大学で学ぶ人が中心になるのですけれども、留学生の人たちに広島にたくさん来てもらって、また広島県内で仕事を見つけてもらって定着してもらおうというようなプログラムを進めようとしていまして、取組みとしては少し息の長いことなので、今年そ

ういう機構みたいなものをつくることを検討した上で、来年から始めるということを検討しています。あるいはこれから進めようとしていることですが、海外からの観光客のお客様に来ていただくことによって、県内の人がそういうことに触れて、またさらに国際化が進んでいくということが進めばいいなと僕としては思っているところです。

Eくんに質問したいのは、先日も実は高校生の参加があって同じ質問をしたのですが、Eくんは作文のコンテストでも入賞したりしてすごく力がある人だと思うのですが、これから将来、尾道あるいは広島県に住んでいきたいと思っていますか。

## ○E

本音を言うと、今の私の夢は国連職員になることなので、もちろん尾道市も愛していますし、広島県にも素晴らしいところがいっぱいあって、感動もいっぱいいただけますけれども、その中で私が考えているのは、私が目指しているのはユネスコなのですが、ユネスコというのは世界の文化の多様性というのをすごく重視していて、今、グローバル化が進む中で画一化がどんどん進んでいますけれども、その中でも例えば一つの国の中で何十もの言語がある国もあるのです。その言語を尊重していく。世界を統一するという感じではなく、それぞれの世界の地域がそれぞれのよさをアピールして、お互いにそれを理解しあう。そういった形の世界が僕が目指しているものなので、そういった意味でまた広島県や尾道市から学ぶもの、その中にある宝というのを世界でお互いに大事にしていくべきだと思います。

## ○知 事

なかなか答えにくい質問をして、お父さんやお母さんがいたら「えっ」となってしまうかもしれないのですが、でも、積極的に求めたいものがあるということだと思いますので、それは是非頑張ってもらいたいと思います。そういう人たちを県なり我々大人が応援してあげないといけないと思います。また大人になって、僕もそうなのですが、一回出てまた戻ってくるというのも選択肢だと思いますし、そういうユネスコだとか文化の多様性というのを重んじる仕事をしたということであれば、尾道で生まれ育ったということはすごく運がいい。歴史的な部分だとか、あるいは文化的な厚みはたくさんあるところで、島も含めて多様なところなので、それはすごくよかったのではないかと思います。

## ○E

ドイツとかニューヨークに行って思ったのですが、そこに住んでいる人たちはその街自身に誇りを持って生きているのです。その誇りというのが、今、少子高齢化の中でどんどん少なくなっていて、活力が少なくなっているのですが、そこで誇りを持つるようになるには、より住みやすいまち、自然の景観、そして、歴史的文化的な景観、そ



の両方が維持される。例えばエコツーリズムなどをやって、観光客の方がそれを理解した上で来て、観光で入ってきたお金を自然や文化的な景観の維持に使う。そういうふうな取組みもしていけばいいなと思います。

#### ○知 事

そうですね。サステナビリティと言われるようなものなのですからけれども、本当にありがとうございます。頑張ってください。

#### ○E

ありがとうございます。

#### ○F

Fといいます。尾道の対岸にある向島の横の岩子島という大変小さい島で農業をしております。ワケギを40aとトマトを30a栽培して、専業で平成元年からですから22年間農業をしております。今までの皆さんの話は大変夢のある話で、私のは現実的でちょっと心苦しいのですが、提案ということで、地域の活性化のためということは、人がたくさん集まるといふか、どんどん人が増えていくというのが本当だと思うのですけれども、そのためにはまず仕事というか、雇用というものがすごく大事になってくると思います。

私は農業をやっているのですけれども、農業というのが有力な手段というか、大事な部分だと私自身は思っています。私は22年間農業をやっているのですけれども、現在、大学生も2人おりますし、大変お金もかかりますけれども、農業だけで学費とか生活費とかそういったものをしていっております。

私がやっているのは向島の岩子島のワケギで、島自体は大変小さいのですけれども、シェアでいうと全国1位と言われております。大変収益も上がっている作物だと思います。具体的な数字なのですけれども、夫婦で1年間2000時間働いて、畑の面積が例えば20a、2haではなくて20aの大変狭い面積ですけれども、それぐらいの面積でも500万円ぐらいは総収入が上げられると思います。そういう大変収益が上がっている農業なのですが、現実的には私が農業を始めてから生産者の数は半分以下に減っております。収入自体は500万円ぐらいということで、ほかにもっと高収入の例えば金融機関に勤めている方などに比べれば少ないかもしれませんが、十分やっつけられるのかかわらず、農業をやっていく人がどんどん減っていくというのはどうしてかと思うのですけれども、そういうことを情報発信する力が私たちにないと思うのです。そういう情報が皆さんに伝わらない。だから、そういうことを行政に、県とか市とか、そういうところで十分広報して欲しいというのが私の考えです。ニュースなどでも、広島と福山で農業に関する就農の相談所を設けるとか聞いていたのですけれども、その中で農業法人に対する雇用、そういう形で

の紹介はしていくと思うのですけれども、こういう小さな個人の自営としての農業に参入していく、そういう案内の広報を是非県としても考えていっていただきたいと思います。

そういうことで、この地域の農業に携わる人がどんどん増えていっていただければ、地域も活性化するし、県全体も、ワケギというのは全国に誇れる作物だと思うので、是非力を貸していただきたいと思っています。それが提案です。

最後に一つ要望として、そういうワケギなのですけれども、いま現在つくるのに非常に困っております。というのは、「べと」という病気なのですけれども、病気が大発生して、病気のためにワケギをつくるのをやめようかという人が結構おります。そのべとが大発生する理由なのですけれども、地球の温暖化ということもあるのですけれども、7~8年ぐらい前に農薬取締法が改正されまして、実は今まで青ネギ類ということでワケギは含まれていたのです。それがワケギと青ネギとをはっきり品目を分けて登録農薬を変えられてしまいましたので、いま現在ワケギに使える農薬は非常に少なくなっています。青ネギの多分3分の1ぐらいだと思います。そういうことで病気に対する防除といったものができなくなっている。これは消費者に対する安全性とかいう問題の前に、農薬メーカーが経済的にワケギみたいなマイナーな作物には登録をなかなかとらないのです。登録にかかる費用が何億とかかって、実際に売れる農薬としては何百万で、要するに経済的にあわないからワケギに対する登録をとらないというのが現状だと思うので、その辺を県のほうから国に要望していただいて、以前のようにワケギは青ネギ類の中に含めるという形で是非働きかけをしていただければというのが要望です。

## ○知 事

ありがとうございました。今の最後の御要望の点については、私も不勉強なので少しいろいろ勉強させていただいて、適切に対応したいと思います。

今の農業のお話は、実は明るいお話だったのではないかと思います。農家の方の大多数はなかなか収入が上がらないということで困っていらっしゃるわけです。そういう意味で農業法人への集中というのを今、県で進めています。他方でFさんのように個人営農の方々への支援をもっとしてほしいというお声も強いです。今の県の農業法人への支援を中心にした施策ということについては、どういうふうにお感じになっていらっしゃいますか。先ほどの求人のところはあると思いますけれども。

## ○F

現実に私も農業法人のことも検討してみたのですけれども、自分自身の今の経営形態からすると、農業法人にして規模をうんと拡大するというメリットがないのです。というのは、ワケギというのは割と労働集約的な部分があって、畑はそんなにたくさん要らないのです。自分の手仕事でしていけるので、農業法人にして規模を拡大すれば収入は上がるか

もしれないですけれども、その分、利益が落ちてしまう。そういうことで私自身は考えています。だから、国とか大規模なそれこそ何十ヘクタールとかそういう形での農業を目指しているみたいなのですけれども、十分小さい面積で収益を上げられる農業はあると思うので、そういったものをもっといろいろ研究して、国のほうも、県もそうですけれども、そちらのほうに十分目を向けていただければありがたいと思います。

## ○知 事

雇用のところで言うと、実は我々が聞く悩みの一つというのは、まさにそういう農業法人に就職という形だったらやりやすいけれども、個人営農という形になると、土地の入手というところから農業地域での住まい、これはアパートがあまりない地域であったりして、家を買ったり借りたりするというのが特に若い人には大変であるという話もよく聞きます。それはどういうふうにお感じになりますか。

## ○F

例えば土地の問題なのですけれども、私は岩子島という島なので、島国根性とよく言いますけれども、以前は土地を貸したりというのはあまり皆さん思っていなかったのですが、最近は島に住んでいる人の意識も変わってきて、結構土地も流動化していて、私も実際自分の持っている土地の倍ぐらいを借りてやっています。そうした中でも耕作放棄地が5割ぐらいはあるのではないかと思うので、土地の貸し借りも今は大分スムーズに行くのではないか。住むところについても空き家再生という先ほどの話もありましたが、空き家も結構ありますし、岩子島ですから尾道のあたりにアパートを借りてもできると思います。だから、県として農業法人に就職ということであれば、単にそれを紹介すれば済むことなのですが、もし今、私が言うような個人営農でということであれば、もっといろいろな、そこに住むことから、土地の賃貸から、作業場のことから、すごく煩雑になってくるので、県としてはその分大変だろうと思いますけれども、そこまで踏み込んでやっていただければいいのではないかと私は思います。

## ○知 事

ありがとうございました。

## ○G

同じく農業を、瀬戸田町高根島のほうでかんきつ類全般をつくっています。Eくんの前で金儲けの話をする自分がみじめになるような気がするわけですけれども、夢を壊さない程度に聞いてもらったらと思います。

今日は地産地消、地産他消ということで知事さんをお願いしたいのですが、今日ここに

持ってきていますが、後で宝さがしというか品種探しをしたいのですが、実はお茶の代わりに皆さんでミカン類を食べながら座談会もいいかなと思ったので、地産地消ではなくてこれはよその県のお茶を使っているのではないかと思います、ちょっと自己紹介を兼ねて品種の名前あてをさせていただきたいのですが、これはデコポンです。分かりますか。

#### ○知 事

それは分かります。

#### ○G

これは分かりますか。

#### ○知 事

それは最近よくスーパーで見えるのですけれども、名前はちょっと。

#### ○G

これは「はるか」と言います。カットフルーツで、酸が非常に少なく、14度前後でおいしいです。

これは分かりますか。これは「きよみ」と言います。これはかなり前から出ているので分かると思います。

これはレモンです。レモンは御存じのように国産レモンでは日本一で、約6割は広島県がつくっています。安心・安全を売り出してエコレモンという格好でつくっています。

これは緑なのですけれどもライムです。ライムも最近できるようになっています。

このちょっとみかんっぽいのですけれども、これは2日前にもいまだ出荷はしていないのですが、みかんの系統で一番遅く食べる品種で「<sup>なつみ</sup>南津海」という品種です。これも15度前後あります。

こういうものが今、出荷の時期に来ているのですけれども、平谷市長さんにもよく言うのですけれども、尾道市民の人もなかなかかんきつ類を食べてもらっていないし、名前もなかなか覚えてもらっていないところもあるので、そういう意味では情報発信が下手なのかな。つくることだけ一生懸命で、食べてもらうということになると、そこらがなかなか農家としては十分ではないと思います。食べてもらってお金にかえてもらうのが私たち農家にとってありがたいことなのですが、そういう意味で、以前もお話ししたのですけれども、知事さんには是非トップセールスをお願いしたい。以前テレビでカキとレモンのセットでやられていたのですけれども、ああいうような感じで広島のかんきつ類なり農産物を是非セールスしてもらったらと思います。

先程来しまなみ海道ということがあるので、実際にしまなみ海道に住んでい

る者としては、最近サイクリングのお客様を見るようになったのですけれども、来られるだけでなかなかお金が落ちていないのではないかと考えています。そういう意味で、おみやげになるような、みかんもあるのでありますが、加工品等、軽くて持ち帰りやすいようなおみやげみたいなものが要るのではないかと考えています。

もう一つは、今、野菜が天候不順で高値なのですからけれども、かんきつ類は去年は豊作で、日本経済が低迷しますと、一番し寄せを食うのが果物類です。果物は嗜好品という位置付けの中で、お金がなくなると果物を食べなくていいという感じのところがあって、そういう意味では日本経済に左右される品種、食べ物と思います。そういう意味で多少海外へ売って出るといのがこれから要るのではないかと。知事さんの所信表明の中にもあったように思うのですけれども、広島県は生産量自体は少ないですけれども、いろいろな品種がありますし、品質面では結構いいところにいるのではないかと自負しております。いま現在、台湾とか香港とか一部ですけれども出荷しています。そういう意味で果物だけの出荷だとなかなかコンテナいっぱいにして出荷できないので、ほかの商品なり物と抱き合わせながら売っていくということで、県がある程度音頭をとって支援をしていただいたら、海外への輸出ということで所得向上につながるのではなかろうかと考えています。

それと、治安が安全というか、代金回収がみやすい台湾とか香港とか一部タイのほうなのですからけれども、一番人口の多い中国本土を攻めていかないとなかなか銭にならないのではないかと。富裕層は向こうのほうが多いかなという感じはします。その辺、政権といいますが、国のあり方が違うので難しい面もあると思いますが、そこらは国なり県が音頭をとって、中国本土へ攻めていくということを是非やっていただきたい。それは知事さんを筆頭にやってもらえればありがたいと思います。

それと、現場では先ほど岩子島のFさんも言われましたけれども、後継者不足と高齢化ということで放棄園がかなりできています。今までUターンということもあったのですけれども、Iターンということも考えていかないと、いわゆる自然界、中山間地域を維持していくのは非常に難しいということがありますので、Iターンができるような体制づくりというか、尾道市にもお願いしたいのですが、そういうことで田舎がさびれないような何かそういう政策を是非お願いしたいと思います。

もう少しざっくりばらんな座談会かと思っていたのですけれども、そういうことでよろしくをお願いします。

## ○知 事

ありがとうございます。海外へ販売するというのは私も是非やりたいというか、しなければいけないと思うのです。今のレモンもそうだと思うのですけれども、地産地消だけだと広島県で消費するレモンはすごく限られているので、県外に販売できて初めて広島県のレモン生産というのはあると思います。ほかのものについても同じことが言えて、かんき

つも残念ながら国内だと和歌山とか静岡が流通も含めて抑えてしまっている部分があって難しいです。海外は逆に日本のそういったフルーツ、かんきつも含めてまだ白地の競争の余地があるのではないかと。それだけ大変だろうと思いますが、これからいろいろな農林漁業活性化計画だとか、あるいはもっと個別に輸出施策みたいなことを考えていく予定にしていますので、是非またいろいろお知恵をいただければと思います。よろしくお願いします。

## OG

もう一つお願いなのですが、この間、事業仕分けの中で東京新宿のゆめてらすがこの3月いっぱいまで多分なくなったのではないかと思っていますけれども、広島県のアンテナショップとして、東京なり大阪なり、新宿のああいうお金がかかるところはいかがなものかと思っておりますけれども、何かそういうアンテナショップ的なものを利用して情報発信をしていくというのは要ると思うので、代替えがどういうことになったのかまだ聞いていないのですが、是非そういう面でもよろしくお願いします。

## ○知 事

分かりました。アンテナショップとするのか、PRの場とするのか、コンセプトを今、固めているところです。その上で、今年の後半なり来年なり適切な時期に、なるべく早いタイミングで再開したいと今、進めています。

## OG

もう一つ、サイクリングでしまなみ海道に来られるのもいいのですが、現場のみかん畑のほうにも来てもらって、食べてもらうなりいろいろしてもらいたいかなと思います。

## ○知 事

分かりました。それは私も楽しみです。よろしくお願いします。ありがとうございました。

## OH

写真家で尾道大学の非常勤講師を務めております、また尾道市の文化財保護委員をやらせていただいておりますHと申します。よろしくお願いします。

皆さん滑舌がいいので僕はどうかと迷っているのですが、現在、私がやっていることは、尾道大学の学生や小学生を集めて「知るを楽しむ」ということで、尾道をもう一回知ろうじゃないか。知ることでいろいろな発見ができる。今までは教育と

いう、数値に置き換えた教育とか記憶という教育でずっとやってきていますけれども、そうではなくて、子どもというのは何かを投げかけてあげると自分で探求し始めるのです。そこを刺激してあげたらもっとおもしろいことができるのではないかと考えております。

それで各種の実験をしているのですが、例えば尾道はすばらしいまちだということはほとんどみなもおっしゃいます。なぜすばらしいのか。歴史があるまちだと言われていています。なぜ歴史があるのかということをお答えられる人が限られているのです。皆さん言うから、映画のロケ地になったから、いろいろな音楽の舞台やCFの舞台になっているからすばらしいと、そこしか言えないのです。本当はもっとその人の奥深い中に感じるものがあるのです。尾道というのはそれを感じさせてくれるところであり、広島海域、瀬戸内海というのはそういう海域です。僕は広島県にすばらしい資源があると思っています。その資源の見つけ方を知らない。その意義を知らない。何年先になるか分からないのですが、子どもたちに知るを楽しむをキーワードにして、広島県のすばらしさを自分で知ろうじゃないか。自分で探訪してもらおうじゃないか。そういう活動を今やっております。

その中で非常に最近痛感することがあります。子どもたちに僕は僕なりに教えていきます。でも、限界を感じるのです。その限界は何かというと、よわい、年齢です。年齢が、僕はまだ50歳です。70歳、80歳、90歳の語る昔話は非常に長いですがけれども、その随所にキーワードがいっぱいあるのです。だから、高齢者と若者がディスカッションできる場所はないものだろうか。確かに長いですし、そこまで言わなくてもいいでしょうということまで話します。どちらかというと、うざったい話もよくあります。でも、その中にもすごく魅力的なものがあるのです。若者が高齢者と話をするチャンスがなさすぎです。例えば高齢者という言葉を知ると、坂のまちですから何か介護をしてお手伝いをしましょう。これが高齢者だというふうにする学生も多いです。でも、高齢者は元気です。ちなみに、私の母親もよく体調が悪くなるのですが、昔の話をすると2時間ぐらい大きな声で話をしてくれます。本当は元気なのではないか。要するに、語る場所をつくってあげたい。そして、学生たちや子どもたちと等身大で話をさせてあげる場所はできないものだろうか。例えば先ほどDさんがおっしゃられておりましたけれども、Dさんの団体にも長がいるのです。上の方がちゃんと若い人間をしっかりと教育する。一緒に働いてくれる人、怒ってくれる人、そういう長の存在が今は極めて少ないのではないかと。昔、嫌な言葉でしたけれども、家付き、カー付き、なんとか抜きというのが流行った時代、そこからだんだん核家族になっていきます。要するに、年をとった人が順番を追って下に教えていくという、そういうシステムがなくなってしまって、若い者は若い者だけで考えなければいけなくなっている。年をとった人は年をとった人だけで考えなければいけない。その意思の疎通のなさが極めて深刻な状態になってきているのではないかと。例えばCF業界で見ても、デザイン性、コピーライトのよさというものは非常に目立ってきます。ですが、そこに味がないのです。多々羅大橋というのはなぜ多々羅大橋という名前になったのか。その

背景を知った人間がコピーライティングしていくとまたいいものが出てきます。味があるものが出てきます。言葉が、大切なものが出てくるのです。その大切さというのは、やっぱり知ることから始まるのです。その知ることを提供してくれる高齢者や先輩方とのコミュニケーションのない若い人たちは、仕方なしに手先の器用さとひらめきと、そして何かのチャンスでこじつけをつくって物を世に出す形になっています。それは極めて危険だと思うのです。

瀬戸内海に外国人を呼びましょう。そういう運動をよくいろいろなところで聞きます。瀬戸内海に外国人を呼んでどうするのか。瀬戸内海を最初にすばらしいところだと言ったのは誰なのだ。誰も語れないのです。例えばフロイスであり、オールコックであり、シーボルトであり、そこから始まって、瀬戸内海的美を語ることによってヨーロッパで大ブームがきます。そのときにその提督たちは何をどう表現したのか。その文章を見ると、外国人からはここがこんなにすばらしいのか、そういうものがいっぱいあるのです。そういうものをもっと勉強しなければいけないのではないかと僕は思っています。そういうストーリービジネスというか、ストーリーイズムというのがこれから大切になるのではないかと僕は思っています。そのためには、やっぱり長となる上の方がしっかり人のコミュニケーションをとる場所を是非つくっていきたいと思いますし、いけたらいいなと思っています。いきなり暴走しましたけれども、以上でございます。

#### ○知 事

ありがとうございます。宝はお年寄りの方々の頭の中にいっぱい入っているということですよ。

#### ○H

そうです。お年寄りが経験してきた、体験してきた記憶であり、習慣であり、風習というものは、そこにすごく大切なものがあると僕は思っています。

#### ○知 事

確かに今はまだ昭和、大正の記憶のある方々がいらっしゃいますけれども、これから残念ながらだんだん減っていくというか、時代が全く現代的になる境目の時期なので、それは大事なこともかもしれません。ありがとうございます。

#### ○I

私は水産振興協議会のIと申します。ただいまちらりと横を向いたら市長さんがお見えになっておりますのでちょっと言いにくいのですが、平谷市長になってから、第一次産業を大切にするというメッセージを発していただきました。それから農業、林業、私どもの



漁業，三つの団体がたえず交流をするようになりまして，食育とかスローフードとか，そういうときに三つの団体がいつも一緒に話をしたり，そういったものに参加をしております。

先日も国立公園鳴滝山へ森林組合の協力を得て地元のボランティアの方が 350 名ぐらい，それに漁業関係が 20 名ほど，三つの団体から参加をして鳴滝山の整備，植林をしました。これもすべて市長の発言を機に三つの団体が共同して動くようになったということでございます。

知事さんには言いにくいのですが，何となく経歴を見ますと，第一次産業とは少し縁遠いのではないかと心配をしておりましたが，昨日いただきました資料の中で，お魚ではメバルの煮付けが好きだというふうに聞きましたので，多少漁業とも接点があるのかなと感じております。

私が今，取り組んでおりますのは，尾道市関係の漁協 7 漁協，それから三原市漁協，それから福山の松永漁協，九つの漁協の合併ということでいろいろと協議を重ねております。これは県の強い指導があるということも申し上げておきたいと思いますが，そういったことで暫時勉強を重ねながら，この九つの漁協が平成 22 年後半から 23 年にかけては一つになろうという意気込みで勉強をしております。これについてはいろいろと紆余曲折はあると思いますが，目標はそういうふうにもっていつております。

それから，子どもたちが海への親しみを持ってくれるのではないかとということで，今年で 6 年目でございますが，浦崎小学校の 5 年生を対象に干潟の観察をしていただいております。これは当初福山大学の学生ボランティアで側面的に応援していただいたのですが，せっかく尾道にも尾道大学という立派な大学があるので，昨年尾道大学にお願いをして，大学生のボランティアの方に応援をしていただいて，子どものそういった観察の介添えをしていただいております。これはずっと続けたいと思っております。

これから本論ですが，時間がなくなりますので簡単に申し上げますが，私は干潟の再生というのが地域の活性化に絶対つながるという確信を持っております。ありがたいことに，前の知事さんの時に，私のほうの漁協へ 18ha の干潟をつくっていただきました。これは本当にありがたいことで，藤田知事さんには足を向けて寝られないとも思っております。

そこで，今年は国交省の直轄事業として，私の漁協のほうへ百島という島の一部と，それから浦崎の高尾という地区へ，両方あわせると約 50 億の公共工事で干潟をつくるということが決まりました。というようなことで，これを再生することによって，雇用という大きな表現ではできませんが，大体 20 貫掘ると 10 kg ぐらいのアサリが採れるようになります。そうしますと，大体時間 1500 円ぐらいのいわゆる時間給ですが，これは高齢者が絶対必要になります。というのが，60 歳定年になられた方が，この 1500 円の手打ちの貝かきなのですが，これが一つありますと戦力になります。今，60 名ほど私の組合で干潟に携わっておりますが，ほとんど高齢者です。一番最高の高齢者は 85 歳の方が 3 人おら

れます。80歳代の方が10人ぐらいおられますし、60歳定年からお助けをいただいても20年は十分戦力として活用できます。そういうようなことで、これから干潟の再生に向けて知事さんもひとつ勉強をしていただいて、ときには干潟へ来られて実地に見ていただいて、おいしいアサリを食べていただきたいと考えております。

いろいろ申し上げたいのですが、また御質問がございましたらどうぞしてください。アサリに関しては100%お答えができます。魚については、尾道は瀬戸内海でも特においしい魚ということになっております。あまり魚については私は詳しくございませんので、御質問はアサリのほうでお願いしたいと思っております。以上でございます。

### ○知 事

ありがとうございます。私は食べる専門なので、漁業には、おっしゃるように少し縁遠い人生を送ってきていますけれども、尾道は、目の前が海で、しかも、きれいな海が身近にあると思うのですけれども、子どもたちの海とのかかわりというのは、昔と比べるとどうですか。減っているとか、最近また復活しつつあるとか。

### ○I

戦後すぐのときは、地域全体が海とのかかわりというのが非常にあったと思うのです。ですから、海に対してはみんな地域がそれだけのものを持っておりました。現状は、あまりにも漁業組合に対して漁業権を強くしすぎたせいで、地域の方が海に入りにくくなっていると思います。私は地域に根ざした漁業組織にしなければいけないと思っております。ですから、新しい干潟ができたものは、地域にも一部を開放して、皆さんに海へ入っていただくという形をとりたいと考えております。

### ○知 事

ありがとうございます。県の施策として今年から始めるのですけれども、海体験とか山体験といって、小学生に海とか島とかでの暮らしというのを何日間か体験してもらう。海の地域から子どもたちには山の暮らしの体験をってもらうというようなことを始めるのですけれども、是非そういった形で子どもたちにも海とか山とかを実地に体験してもらおうと思っています。

### ○I

ありがとうございました。

### ○J

因島から来ましたJです。「いのしま・はぶ姫の会」と言いまして、商店街で女性部と

して活動をしています。この「いんのしま・はぶ姫の会」は、平成 18 年に商工会議所の呼びかけにより、おかみさんパワー活用事業をきっかけとして商店街の活性化を願い、現状に危機感を持っていた商店のおかみさんの有志で組合女性部として結成されました。結成後は継続して勉強会や研修会及び他の商店街との交流会、あと外部視察などを積極的に行っており、自分たちの魅力は何か、何ができるのかを考え、悩み、他の地域の商店街とは違った切り口でPR活動を行うことを重点的に取り組んで活動しています。

現在の主な活動なのですが、毎月 24 日がお地蔵様の日、これは全国的にそうなのですが、商店街近くにお地蔵様の御堂があって、お抱え地蔵さんがいますので、その御堂開きをして、願い事が叶うといいなあの日として活動しています。この日には 17 名の会員がいるのですが、交代でお参りに来られた方のお茶の接待をしたり、因島ははっさくが発祥の地なのですが、折紙ではっさくを折って、その御堂の下に弘法大使がつえをついて湧き出たという井戸がありまして、そのお水で 5 円玉を清めたものをその中に入れて、接待に来られた方にお渡ししたりしています。そのほかにも各お店ではお勧め品を出して、商店街店頭でワゴンを出したりしています。

このほかの活動としましては、年間を通して、尾道市では灯り祭りを行っているのですが、その後に因島でも灯り祭りを行っています。

保育所、小学校、中学校、そういった地域の子どもたちに絵を描いていただいて、そういったものを商店街に張り出したりして交流ができるようにしています。

そのほかは、100 円商店街、1 店 1 品、夜店とか歳末売り出しとか、ほかの地域でもよくやっているようなことですが、こういった活動を行っています。

そのほかにオリジナルマップの作成、手書きのマップの作成ですとか、こういったものを島内、島外にもPRをしたり、あと販促用のチラシも自分たちで手づくりをして、毎月張り出したりということで情報発信を行っています。

こういったイベントもある程度定着をしてきまして、応援してくださる方もたくさん増えています。本当に微力で、これといって変わった活動はできていないような気もするのですが、毎月続けていっていることを周りの方にも評価していただいているねとよく声をかけていただきます。

今後もそういった地域の方々にはもちろんなのですが、島外から来てくださった方にも楽しんでいただけるようなまちづくりをしていきたいと思っています。

先ほどから人のつながりとか和とかそういった言葉が出るのですが、因島には村上水軍というものがあって、その水軍の教えというのが人の和です。つながりというのを大切にというのが教えということで、私たちもその教えを大切にしながら、皆さんとつながりを持って活動を今後もしていきたいと思っています。

今後活動していく上で知事をお願いしたいのが、観光です。こういったものを島外にもどんどんPRをしていきたいというのも検討課題の一つなのですが、これらの活動を行っ

ていく上で人材育成，研修会ですとか，ほかの地域の方との交流会等，情報の収集・発信，先ほども事業仕分けとかありましたけれども，活動していく上で補助金等がなくなったものもありまして，そういった面でもまた御指導とか御協力をしていただければと思っています。ありがとうございます。

#### ○知 事

ありがとうございました。本当に地域に根ざした地域の商店街の活性化というのに取り組んでおられると思うのですけれども，そういう活動が地元の暮らしにはすごく大事になると思います。

そういう中で一つお伺いしたいことは，因島は昔から橋がつながっているからあまり変わらないのかもしれないのですけれども，今，しまなみができたり，こういう橋，あるいは車が便利になって，よくストロー効果というのが言われますが，地域ではなくて，ここだったら尾道とか福山のほうにみんなが買い物に出してしまうとか，そういったことは実感されることはありますか。

#### ○J

まさにそのとおりで，橋が開通してから島外に出られる方はすごく増えています。橋が通っていないときはどうしても島内で買い物も食事もされてということで，決まって週末は忙しいということもあったのですが，今はお客さんの流れも読めないような状態です。土日は島外，尾道，福山の近辺に出られて，日用品の買い物も全部外でされて，食事も外でされて帰る方がすごく増えています。島内にも大型スーパーが島の割にはたくさんあります。そういったものがある中で，商店街にはほしいものが少ない。スーパーより物が高い。私たちはどうしても仕入れのコスト上，大手にはかなわない。そこで勝負ができないので，私たちは人の温かさというところでお客様とのかかわり，日ごろの声かけとか，そういったところを大切にしながら顧客をつかんでいくために努力はしています。

#### ○知 事

ありがとうございました。

#### ○司 会

皆さんありがとうございました。

## 自由討論

### ○司 会

大分雰囲気もなごんできたようですので、これから全員での意見交換に移ります。ほかの方の御意見に対するお話など、何でも結構ですのでお願いしたいと思います。

それでは、初めに知事のほうから皆さんに御質問等ございましたらお願いいたします。

### ○知 事

いつもは僕から質問するのですが、今日は既に大分やりとりもさせていただいているので、逆に皆さんから何かほかの方々のお話を伺ってとか、あるいは僕の途中の話を聞いて、何かコメントや御質問があったらいただければと思ったのですが、いかがでしょうか。

### ○D

知事さんが瀬戸内海の道1兆円構想というのをおっしゃっていますが、このたびしまなみ海道の料金が上がるということをちらっと聞いたのです。しまなみ海道は高速道路の続きというのではなくて、全部の島に人が住んでいますので離島振興策の一つでもあると思うのです。ただ、旅人とか観光客が来る橋だけでなく、地元にいる者が今治に行ったり、尾道に來たりというような通勤にも使います。そういったときに橋の料金が上がるというのは、私どもとしては「ええっ」というような感じなのですが、そののところはどう思われていますか。

### ○知 事

橋の料金がというよりも、地域の足として考えなければいけないと思うのです。料金自体は恐らく観光客の皆さんにとって値段が上がるというのはそれほど大きなインパクトではないと思うのですが、地域で実際に生活道として使われている方々にとってはインパクトが大きいので、それはどうするべきなのかというのはよく国とも議論していかなければいけないと思います。ただ、生活道というのは道だけではなくて、これまで逆に問題になってきていたのが、橋の料金を下げることによってフェリーとか船が壊滅的な影響を受けているということもありますので、船とか橋とかいうことではなくて、生活道をどうするのかということで、どういったレベルの料金にしていく、あるいは補助だとかそういうものをどう考えていくか、全体的な視点で考えないといけないと思っています。

### ○D

ありがとうございます。

## ○知 事

逆に、もちろん通勤通学の方々というのはよく橋を使われていると思うのですが、その他の日常生活での橋の利用というのは、皆さん実際に生活をされていてどんな具合なのでしょう。島側にいらっしゃる方と尾道の旧市街側にいらっしゃる方でちょっと違うかもしれませんけれども。

## ○G

橋ができて生活が便利になったかどうかというと、逆に、県立瀬戸田高校というのが島にもあるのですが、高校生が三原なり尾道なりに通学するようになって、だんだん地元の高校へ行かなくなって、存続自体逆に心配しているところがありますし、産婦人科も、子どもが生まれにくいということもあるので、今は市民病院の管轄になりましたけれども、瀬戸田町にもないし、聞くところによると因島にも産婦人科がなくなるという感じで、瀬戸田や因島に住んでいる方は尾道か福山にお産するのに出ていかなければいけないということで、人口が減ってきているということが大前提にあるのでしょうかけれども、ちょっとしたときには出て行かなくてはいけません。そのたびに橋代がかかって、逆に便が悪くなっている。瀬戸田ですので三原のほうにも行くのですが、船の便が少なくなって、船代もちょっと上がるというようなことで、交通手段としても、尾道なり三原なり福山に出て行く回数が多くなるにつれて、島で生活するのが逆にしんどくなってきたという感じはあります。

## ○知 事

ほかの方々はどうですか。Fさんはいかがですか。

## ○F

私の場合はすぐ近くの島なので、たちまち尾道大橋だけで、それはしまなみとはちょっと違うのですが、やっぱり車社会になって、岩子島は小さい島ですが、お店は1軒もないので、車がないと出かけられない。はっきり言って高齢者で一人暮らしになると、買い物にさえ困るということで、やっぱり島には住めないという感じになるのかなと、今、そういう状況ではあります。

## ○知 事

橋も含めて便利になった分、島からいろいろなものがなくなってしまって、それが今度は島の不便さに拍車をかけているというそんな感じなのでしょう。なかなか難しい問題で、かといって、橋をなくしてしまって昔みたいに船にしたほうがいいかということ、そういうわけにもいかない。なかなか明瞭な解がなく大変難しい問題ではあります。そういっ

た現実があるというのはよく踏まえながら、地域交通のことなども考えていかなければいけないということですね。

## ○B

少しいいですか。産婦人科がなくなったというお話なのですがけれども、最近気付いたことは、本当に便利になりすぎて昔のことを知らない人が多いです。先ほどHさんも少し言われていましたけれども、産婦人科が本当になくなると、お産をされる妊婦さんにとっては大変な問題で、逆を言うと、自然分娩のような助産師さんと呼んで自宅で出産したいという声は実はあがってきているのです。だから、もう少し昔に戻った考え方もしながら、いい生活を考えていかないといけないときが来たのかなというのを実感しています。

農業のことに関してもそうなのなのですが、あいている畑がすごく多いですよ。使われていない畑が多いです。でも、それは県にとっては財産なわけですから、そこを活用して、雇用につなげて、それで地産地消をやっていくというのは大切なことではないかと思います。

そういう意味でも昔ながらの生き方をもう少しみんながやっていったほうがいいのかというのを感じます。

## ○知 事

その点については、これもまた個人的にはすごく悩ましいことだと思っていて、例えば今のお産の話にしても、助産師さんで子どもを産むというのは、確かに最近そういう流れもあって自宅出産というのも増えてきています。では、自分の立場になってみたときに、うちは3年前に子どもが生まれたのですがけれども、やっぱり何かがあったときが一番病院に頼りたいときで、子どもが生まれるときというのは、何かがあったら困る、どうしても病院で産みたい、と妻は考えて病院で産みました。しかし、病院が近くにあれば助産師さんで自宅で産んで、もし何かありそうだとということになったら3分で病院へ行けますということであれば、多分問題ないと思うのです。遠く離れたところでない病院がないというのは、そういう意味では、今、特にお子さんが産まれるときに亡くなったりとか、あるいは障害を負うというケースが少なくなってきたので・・・。

## ○D

新生児の死亡率は下がっています。病院は設備がいいから助かっている場合が多いですよ。

## ○知 事

広島市でもそうなのなのですが、日本一死亡率が低いのです。それはやはり病院に依

存した形にはなっているので、そういうセットで考えなければいけないと思います。個人的な考えですが・・・。

## ○B

自然分娩をすべてで言っているのではなくて、産婦人科が実際なくなってしまった場合に、どういう選択肢が起こってくるかということを考えなければいけなくて、産科だけではなくて、ほかの病院も一緒だと思うのです。病気になったときに病院がないというのはすごく大変なことなので、人口に比例して考えることではなくて、命にかかわることなので、設備的に絶対に必要なものではないかという話がしたかったのです。

## ○知 事

今、県内でも地域医療再生計画というのをつくってまして、医療圏というのがありません。備後医療圏とか備北医療圏、広島医療圏とか、中央医療圏とか、そういう医療圏ごとに救急体制や、あるいは足りていないお医者さんをどういうふうに配置していくかということを検討しています。最近では、広島大学で地域医療のための医学部生の枠をつくったり、あるいは寄付講座をつくって地域医療について研究をするというようなものや、地域にお医者さんを配置するための医師会や医療関係者が協力するための機構、組織をつくって地域にお医者さんを配置していこうとか、そういうことをやろうとしています。でも、現実にはお医者さんが地域から減っているというのも確かで、今やっていることの効果が上がるのは10年単位の仕事なので、当面の課題をどうやっていくのかというのは我々としてはまさに大きな課題になってきていると思っています。

## ○E

ちょっと話は変わるのですけれども、便利になるということに関連して、社会が便利になるにつれて、もちろん物質的に豊かになったと思うし、僕たちの世代が生まれる前の苦労というのを僕たちは知らないので分かりませんが、やっぱり今、必要なのはこの先の未来、今の資源がなくなったとき、自分たちがどういう生活スタイル、どういう生活様式を築いていくのかという問題があると思うのです。そういった中では持続可能な社会、持続可能な開発というのは求められていると思います。これから先、広島県に住む人が時代の変化の中で今の生活を保ち続けるためにどういう政策を県は考えているのでしょうか。

## ○知 事

物質的な豊かさというのは確かにある程度成熟してきていると思うのですが、人が幸せを感じるというのは、これは僕の確信というか、信念の一つなのですが、「昨日より今日のほうがよくなる、今日より明日のほうがよくなる」ということを感じられることが



大事。それは物質的なことだけではなくて、地域の活動にしてもそうだし、もちろんいろいろな産業についてもそうだと思うのですけれども、それをそれぞれのいろいろな分野で皆さんが感じていくことができるような、そういうことが必要と思っています。

そういう意味で分野ごとに分けて、例えば地域医療なら地域医療、あるいは福祉という分野でよりよくするためにはどうしていこうか、より活性化するためにはどうしていこうか、そのためにはその中で関わっている人たちがより活性化していくこと。どんよりしているのではなくて、もっとこうしたいとか、ああしたいというのが掬われて前に動いていくということが必要だと思っています。それぞれの分野でそうなるように計画を立てたり、コミュニケーションを図ったり、そういうことを今やろうとしています。

そうは言っても経済は非常に大事だと思っています、エンジンなのですよね。つまり、広島県だけが世界から独立して、ないしは孤立して存在するわけにはいかないのです、例えば医療にしても、お医者さんを雇ってこようと思ったら、日本全国ベースでのお医者さんに対する給料というのは払わないと来てくれないわけです。給料だけで来るわけでもないのですけれども、広島県に来たら 200 万円で、ほかに行ったら 1500 万円ですといったらなかなか来てもらえないので、同じことですが、例えば医療器械を買うにしても国際的な価格を払わなければいけない。あるいは、教育における先生にしてもそうですし、教材にしてもそうです。あるいは、インフレを維持するにしてもそうなので、そういったことに対してお金を回していくための経済力というのは大事だと思っていて、農業も含めて、広島県の経済が発展するようなことをしっかりとやっていきたいと思っています。

## ○E

前に僕が調べた資料によると、シンガポールは経済発展はしたのですけれども、一時財政が結構苦しくなって、その苦しくなった中でシンガポールはどういう政策をとったかという、最初の質問のときの話にもあったのですが、海外からの居住者を受け入れて、今は多分 30%以上は外国の方だと思うのですけれども、それで住民税をとって財政を立て直したという事例があります。

日本という国家全体も財政が苦しくなってきている中、夢は大きく持てばいいと思うのですけれども、財政問題の解決策というのはなかなか新聞とかニュースを見ても見えないと思うので。

## ○知 事

やっぱり財政の話というのは、詰まるところは税収なので、税収増というのは税率を上げるか、ベースになる経済活動が活発になるか、この二つに一つしかないのです。打ち出の小槌でお金が出てくるわけではないので、税率を上げることももちろん考えなければいけないのですけれども、ベースの経済が拡大をしていくことが大事で、シンガポールの場

合も、海外から頭脳を呼び込んでくることによって経済の活性化を図っていった面がすごく大きいです。シンガポールみたいにもともと多民族国家であるとすごくやりやすい部分もあるのですが、日本はそうではないので、そういうことも考えながら、でも、今ある我々の力でどこまでできるかというのをしっかり取り組んでいかなければいけないと思っています。

○E

ありがとうございます。

○知 事

ほかによろしいですか。

## 閉 会

○司 会

皆さん大変実りある貴重な御意見をたくさんお話しいただきましてありがとうございます。予定しておりました時間となりました。終わりに、本日の感想も含めまして、知事のほうから御挨拶を申し上げます。

○知 事

改めまして、本日は本当にお忙しいところ、こうやって意見交換をさせていただく機会をいただきましてありがとうございます。また、傍聴の皆様も長時間お疲れ様でした。お休みのところ集まりいただきまして本当にありがとうございます。

今日は特に活発にいろいろとやりとりもさせていただいて、すごくよかったですと思います。尾道という歴史のある都市、多様な都市というのを感じさせるセッションであったと思います。本当にありがとうございます。

今日、いろいろな御意見をいただきましたけれども、個別具体的なものもあったと思います。それはきちんと庁内で検討して進めていきたいと思ひますし、その他のことについても、冒頭申し上げたように大きな樽の中にどんどんため込んで、しっかりと熟成させておいしいワインのようにいい政策をつくっていきたいと思ひておりますので、引き続きまた皆様の御協力をいただければ大変ありがたく存じます。本日は本当にありがとうございました。

○司 会

参加者並びに傍聴席の皆様、長時間にわたり御協力をいただきましてありがとうございます

ました。

それでは、以上で「第4回湯崎英彦の宝さがし」を終了いたします。どうもありがとうございました。